

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

			富山県農林水産部水産漁港課		
目的	既存施設の改修整備及び機器の導入により、水産物加工作業の効率化、高品質化、高度衛生管理システムの導入を図り、低次加工品の生産量を拡大することで、呉東地区という広域的な地区の魚価向上を実現する体制を構築する。				
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・製品製造量の増加 ・流通加工経費等の削減 ・付加価値向上 	31富山-1			
事業実施主体	魚津漁業協同組合				
実施地区	富山県滑川地区				
実施期間及び目標年度	実施期間		目標年度		
	平成30年～令和元年度		令和4年度		
助成金額	103,800,000円				
事業計画の内容	鉄骨造1階建（766.61㎡）の増改築 加工処理能力：3.3t/日				
評価	取組の目標（KPI）		漁業所得の向上		
	基準年	平成29年度	●●千円		
	現状値	（令和4年度末実績）	●●千円	増加率 -43%	
	目標値	令和4年度	●●千円	増加率 5%	
	成果目標		漁業所得の向上		
	現状値	（令和4年度末実績）	●●千円		
	目標値	令和4年度末	●●千円		
	（1）現状値の説明		現状値は、当該施設での加工によりホタルイカ・フクラギの付加価値が向上し生産者へ還元が見込まれると考え、漁獲金額を受益者数で除して算出した。施設の製品製造力の強化を図ったことで、一時的に漁獲量が増加した場合の魚価低迷を抑えることにつながっている。その結果、フクラギにおいては、変動要素があっても魚価上昇につながっていると見える。一方、ホタルイカは外食需要の大きい高価格魚種であり、コロナ禍の影響を大きく受けたことに加え、R4は過去5年の1.8倍という想定外の大豊漁となったことで魚価は例年の半値近くに下落した。よって、加工場の製造量が増加するも漁業者所得向上とする成果目標を達成できなかった。		
	（2）地域への経済効果（ハード事業のみ）		施設の製造能力及び衛生管理が向上したことで量的にも品質的にも製品力が向上し、漁獲物の魚価低迷の抑制に寄与した。さらに、国内消費が低迷する中、製品競争力が増したことで海外輸出にも力を入れることができるようになり、今後、関連産業にも波及効果が見込まれる。		
	（3）所見		本施設が整備されたことで、加工作業効率が向上し高品質化や製造量増加につながった。これにより、原材料のフクラギは漁獲量変動にもかかわらず魚価向上につながった。ホタルイカは、コロナ禍の悪影響を受けたことに加え、R4年度の県内漁獲量が例年の1.8倍と想定以上の変動であり、魚価が暴落したため漁業者所得向上とする成果目標を達成することはできなかったが、コロナにより簡便消費に大きくシフトしたことにとも対応することができ、県内全体より魚価の下落幅は小さく一定の魚価低迷抑制は見られたため、本施設の整備は適正であった。		
（4）評価機関への意見等					
今後の改善方向等に関する分析		本施設が整備されたことで、漁獲量の増加による産地価格の下落を抑える効果が認められたが、コロナ禍や想定以上の豊漁等、外的要因による大幅な消費低迷や魚価下落に対応しきれなかった。その分漁業所得を支えることができなかった。しかし、冷凍加工原料として使用できるホタルイカを少しでも買い支え、大幅な魚価下落を支える効果はあった。今後は国内消費はもとより、国産水産物の消費拡大を図るために輸出拡大に尽力していき、品質の向上と安定生産による魚価の向上を目指し、漁業者の安定収入につなげたい。			